診療局：内科《糖尿病・内分泌代謝内科》

ースタッフ紹介ー

役　職	スタッフ名
部　長	樫根　晋
医　長	倉敷　有紀子
副医長	高井　研次
医　員	高山　瞳　(4月入職)
医　員	坂本　明子　(4月入職)
後期研修医	劉　勇　(4月入職)

ー概要ー

糖尿病・内分泌代謝内科では糖尿病および内分泌疾患(甲状腺、下垂体、副腎疾患)の患者の診療を行っている。当院は救命救急センターを併設しており、内分泌緊急症例を救命診療科との連携の下、診断・治療を行っている。また妊娠に合併した耐糖能障害、甲状腺機能異常に関して、産科と連携し治療を行っている。

糖尿病治療においては、医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士がチームとなり、各々の職域の特徴を生かしながら、患者教育、指導を行っている。当院における糖尿病療養指導士は10名であり、いずれの職種にも療養指導士が在籍している。そのことによりより専門性の高い患者指導が可能となっている。

人員は常勤医として樫根、倉敷、高井医師に加えて本年より、高山、坂本医師が入職した。非常勤医として、後期研修医として劉医師が入職、矢頃医師、中田医師および大阪大学総合地域医療講座　米田助教で診療に当たった。

ー実績ー

外来診療については、糖尿病および内分泌疾患が主であり、1日平均の外来患者は37.6人であった。一方、入院については、糖尿病教育入院を中心として延べ229症例を当科にて担当した。また他科入院中患者の血糖コントロールなどを共観として行い、228症例を受け持った。

入院患者の病名の内訳は糖尿病患者が180例(糖尿病ケトアシドーシス3例、高血糖高浸透圧症候群5例、1型糖尿病18例、2型糖尿病132例、妊娠関連5例、その他18例)、下垂体疾患6例、副腎疾患19例、甲状腺/副甲状腺疾患11例であった。糖尿病症例に関しては2016年度とほぼ同様の症例数であった。

糖尿病教育指導として隔週の月曜日から金曜日午後の30分間を用いて、糖尿病教室を施行した。講師は各職種(医師、栄養士、理学療法士、薬剤師、看護師)が担当した。糖尿病教室での指導資料として当院オリジナルの資料を作成し本年度から使用を開始した。また糖尿病教室に加え、毎週月曜日から金曜日の午前中の30分間糖尿病指導用のDVD視聴会を開催した。また市民を対象にした生活習慣病教室を行い、多数の受講者が見られた。

院外啓蒙活動として、2017年11月12日日曜日当院2階メインホールにおいて世界糖尿病デー　りんくう健康フェスタとして市民参加型のイベントを企画。多数の市民に参加いただいた。

ー今年度の成果と反省点ー

泉州地区で有数の症例数を糖尿病チームとして経験できた。反省点としては糖尿病合併症管理については、不十分であり、とくに腎症重症化防止を目的とした透析予防指導は患者数が低迷した。また糖尿病患者における血管合併症の評価などが不十分であり、今後の課題である。

ー来年度への抱負ー

糖尿病合併症の評価および重症化予防に関する取り組みを外来、入院両面で強く推進していく予定である。

2018年4月より日本内分泌学会認定教育施設に認定予定であり、糖尿病学会の認定と合わせて、泉州における糖尿病・内分泌疾患の基幹医師教育施設としてさらなる発展を期待する。

世界糖尿病デー　りんくう健康フェスタの様子